

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0370600512		
法人名	社会福祉法人平和会		
事業所名	グループホームいいとよ(北乃家)		
所在地	岩手県北上市村崎野12時割74番地28		
自己評価作成日	平成23年7月28日	評価結果市町村受理日	平成24年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370600512&amp;SCD=320&amp;PCD=03">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370600512&amp;SCD=320&amp;PCD=03</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年8月23日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

田園地帯に立地し、敷地内には特別養護老人ホーム・デイサービス・ヘルパーステーション・在宅支援センターがある。自治会に加入し、地区清掃や運動会等積極的に参加している。敷地内にある畑にて野菜を育て、季節に合った食材を提供している。毎月の誕生会では、花見やぶどう狩り等、外出する機会を多く作っている他、家族様にも協力を得られるような行事作りも心がけている。また、家族会を開き、食事会や草取り等交流を図っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員が利用者のことで気付いたときに記入する「気付きノート」と利用者の事以外に気付いたことを記入する「なんでもノート」の内容を確認したが、他施設でも参考になるような内容である。職員は全員が正職員のためか向上心が感じられる。地域との付き合いも、自治会に加入し、近くの中学校とも交流をもっているが、震災等のときに近くの人々がかけつけてくれるような交流をもちたいと努力している。また、居室担当制をもうけて職員の責任分担を明確にして利用者を理解しようとしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に介護理念を見直し、皆で話し合い作成している。理念は、玄関等目につきやすい場所に掲示し、常に確認できるようにしている。	理念は事務所・トイレ・玄関に掲示し、法人の理念・勤務表も掲示して、職員のみならず訪問者も確認しやすいように配慮されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地区行事へ積極的に参加している。中学校との交流、ペットボトルやプルタブ集めの協力を行っている。	文化祭を見学したり、毎年体験学習の受け入れをしたりして、中学校との交流を図っている。保育園児に畑を提供して芋堀りをしてもらっている。特養ホームと合同の文化祭を行い、各学校に案内を廻している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験や、地域ボランティアを受け入れの際に、認知症への理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、利用者様の状況や活動報告をしている。委員からは、アドバイスや地域の情報等もいただいている。	運営推進会議を奇数月の第4月曜日10:30頃と決めて開催している。委員の方々と昼食を介し、意見をいただいている。7月25日の会議には、委員14名中13名出席いただく等、活発に取り組みが図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加。各種手続き等について、助言、指導をいただいている。	運営推進会議へは市町村担当者も参加している。各種手続きも本人を連れて市の担当窓口へ行っているが、親切に助言・指導をいただき、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間は施錠しているが、日中開放に向けて委員会、職員会議で話し合いをし、施錠による弊害を職員がしっかり理解し、玄関開放に取り組んでいる。	職員の見守りで施錠しないで対応してきたが東日本大震災後、利用者が不穏になることが多く外出傾向が見られるため、現在は、玄関を日中も鍵をかけるようにしている。	震災による利用者の精神配慮も踏まえつつ、施錠についての弊害を認識して「鍵をかけないケア」を今後、検討していただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する資料等、職員全員が目を通し把握している。また、見過ごさないよう、職員間で意識してケアに当たっている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームいいとよ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度を利用されている方は現在いない。勉強会等設け、職員全員が理解できるように体制を整えていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて説明を十分にし、疑問や不安点を表しやすいような説明を心掛けている。また、転倒等の危険性も十分に説明し理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月利用者の状況を家族様へ文章にて報告している他、面会等の際にも近況を伝え、連携を密にして意見や要望を表していただけよう努めている。また、定期的に家族会を開催し、交流の場を設けている。	居室担当制を設けて意見要望を運営に反映するようにしている。毎月、請求書に「家族送付文」(写真付)を同封して近況を伝えるようにしている。家族会は年1回の総会、年2回の交流会(夏はバーベキュー、冬は忘年会・新年会)を開催している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開き、提案・要望等を聴取して業務に取り組んでいる。管理者と職員は年1回は個人面談して、職員の考え方を聞いて業務に活かしている。	月1回の職員会議の前に事故対策・身体拘束・業務改善・排泄委員会を開催して意見提案を聞き、「職員会議ノート」に記録している。法人内の管理職会議は月1回主任以上で開催され(施設系と訪問系に別れている)、施設長は法人理事でもあるので、理事会でも意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職とは共有する意見交換をして全職員の実績を把握している。勤務環境と労働時間を考慮して、夜勤を16時間から8時間勤務に変えた。夜勤手当は短時間になっても同様。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講させ、他法人職員から情報収集して職員会議で報告するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会定例会に複数に参加し、情報を共有してサービスの向上につなげている他、姉妹法人のGHとも定期的に集まり意見交換をしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームいいとよ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の生活状況の把握に努めている。施設見学に来ていただき説明し、本人の思いを聞いて信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の苦労等、把握できるようゆっくり聞くようにし、不安や要望を表しやすい対応を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、要望等を把握し、改善に向けた支援ができるようケアプランに活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯たたみ、食器拭き等個々の利用者に適した役割を持ち、職員と利用者様が協力しながら支えあう関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月近況を書いて送付している他、年4回発行の公報で利用者の状況を伝えている。また、家族参加の行事を計画し、協力関係を築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や美容院に行っている。また、特養に知人がいるので、時々遊びに来て下さる。	利用者の方で1名は馴染みの美容院へ行き、1名は自宅近くの個人商店に行っている。隣接する特養ホームの知人に時々会いに行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様で過ごせるような環境作りや個別に対応する場面を作るなど支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	重度化により、隣接の特養に移動するケースもあるが、その際は本人の状況・好み・ケアの方法等詳しく申し送っている。また、入院した場合も家族様と連絡を密にし相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当が決まっており、普段から注意を払い介護している。その中で気づいた事、必要な事をプランに反映させている。	居室担当は並びの2室を担当し、1年間担当している。職員が利用者のことで何か気付いたときには「気付きノート」に記入し、利用者の事以外については「なんでもノート」に記入し職員間で何でも共有し日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接時しか聞けない情報もあるので、表面的なことばかりでなく聞くよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	精神面や体調を考慮し、1日の過ごし方を考えている。運動不足の利用者と歩いたり、落ち着かない方とは散歩に出たりと状態に合わせて対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度ケアプランの見直しを行い課題を抽出しプランに反映させている。家族様にはプランの説明を詳しく行い、面会時報告し意見を求めている。	「施設サービス計画書」により、3ヶ月に1度のケアプランの見直しを行い、職員全員で確認して、ご家族面会時等に説明し意見要望を聞き計画に反映させている。一部を(ご家族に)お渡しし、一部に確認・押印のうえ、控えとして置いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	不穏時など、きっかけや状況を詳しく記録し対応策を考える材料にしている。ヒヤリハットや気づきノートを活用し、個別の対応を考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外泊や食事、買い物など本人・家族様の要望に応じて対応している。家族様の状況により通院の支援をしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームいいとよ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動に参加したり、回覧板をまわしながら近所の人達と交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様が受診する時は、状況を説明する他に大切な事は紙に書き渡す。皮膚科などは同行し処置の方法、内服を確認している。	ご家族のみが同行し受診する場合には状況を説明したり、大切な事はメモに記入し、医師へ持参して頂くようにしている。基本的にはご家族が同行するのであるが、職員が同行しているケースが多い状況となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	排便の有無や体調など朝一番に報告を受け対応している。夜間や休日に困らない様早めに報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院したときはサマリーを提出している。退院時カンファレンスに参加したり、直接担当の看護師やリハビリ担当者へ会い情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて、主治医が講師となり勉強会を開いた。ささいな事でも家族様に報告している。スタッフ全員が今のケアを充実させるという気持ちで取り組んでいる。	看取り経験はこれまではないが、現在、可能性がある方がいらっしゃる。「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」が整備されている。近いところでは4月25日に、研修会(勉強会)が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による看取りの勉強会にあわせ、下血や吐血の対応について学習した。AEDの講習会に参加するなど研修の機会を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特養との合同の避難訓練を行っている他、GH単独の避難訓練も行った。震災後、災害備蓄品の見直しをかけた。	3月11日の震災以降は、6月29日に地震想定訓練を行っている。災害時備蓄品の食品等リストを確認した。	夜間の勤務体制が2ユニットで職員が1人対応であるが、今後、大規模な災害や震災、緊急時に対してどのように対応していくか一層の話し合いや勤務体制も踏まえた検討等を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを深く理解し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。日々の関わり方で気づいたこと等あれば、職員で注意したり、会議で話し合いケアにあたっている。	指示的な呼びかけはしないこと、元教師の方には「先生」と一人ひとりに合った呼びかけを心がけている。個々のプライドへの配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今まで住み慣れた環境や習慣等を把握し、コミュニケーションの中から本人の思いや希望を聞きだせるよう心がけている。また、メニューや飲み物等自己選択ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間など大まかな流れは決まっているが、本人の生活習慣に合わせて負担のないように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院に行かれる他、定期的に床屋に来院していただき散髪している。また、季節に配慮しながら本人の好きなように服が選べる環境作りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは一緒に行うようにしている。献立には希望に沿ったものや選択メニューを取り入れ、行事メニューにも工夫している。季節に合ったものや畑で収穫した野菜を提供している。	行事食は毎月の誕生会、ひな祭り、お月見、土用・丑の日、年越しや正月に食している。野菜(スイカ、ナス、キュウリ等)を3反歩の畑で栽培している。水分補給のために手作り寒天やゼリーを提供し、食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接する特養の管理栄養士の指導を下にしてよりよい食事を提供できるようにしている。また、飲みやすい物、好みを聞き水分補給を徹底している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを実施している。出来るところまでは自力で行ってもらい、後は支援している。義歯の方は夜間消毒している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームいいとよ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎月、排泄委員会を開いている。排泄チェック表を使いパターンを把握し、トイレの声がけをしている。	個々の排泄チェック表で、一人ひとりの状態を把握していることを確認できた。併せて排泄委員会の詳細な議事録を確認した。手造り寒天やゼリー摂取により水分の補給をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らないよう乳製品や寒天の摂取、水分補給、適度な運動を心がけている。起床時の水分補給も習慣としている。排泄表にて便秘の方を把握し、下剤を使用する場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気の乗らない方には時間をずらしたり、シャワーにしたりと個々のペースに合わせて支援している。1日おきの入浴としているが、利用者の希望に沿って支援している。	基本的なペースとして1日おきの入浴であるが、毎日入浴を希望されている方(2名)は、毎日の入浴をしていただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動してもらい、夜間の良眠につなげるよう支援している。また、日中でも休息を取り入れたい方には自由に居室で休んでいただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をいつでも見れるようファイルしている。処方変更になった場合は、申し送りに記録し全員が把握するようにしている。薬は施設管理にて本人に手渡している。その際も職員間で声を掛け合いながら、飲み込みまで確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花壇の手入れ、米とぎ、食器拭き、洗濯たたみ等、個々の能力や生活歴を活かした役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物、外食等可能な限り外出できるよう支援している。また、季節にそってお花見やぶどう狩りなどに出かけている。	「行事計画書」を確認したところ、毎年花見、ぶどう狩りをおこなっている。買物等への外出は、月1回以上は出かけて頂けるような支援を心がけている。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームいいとよ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方が多く、職員が管理している他、立替払いにて対応している。自分で管理している方は、買い物や外出時に支払えるよう職員が見守り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話をかけられるようにしている。手紙は好きなときに書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様より頂いた花を飾ったり、季節感のある掲示物を飾っている。食堂には天窓があり明るい。2ユニットだが、南乃家・北乃家と自由に行き来できる。ソファやテーブルの位置も使いやすいよう配置している。	南乃家と北乃家のユニットの廊下等の色は濃淡を異ならせて、雰囲気に変化を持たせている。廊下の所々にちょっと休める木のベンチを設けて、居心地をよくしている。2ユニットの中間に、和室をおき交流しやすくしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や食堂など自由に行き来できるようにしている。居室前のベンチや中央に設けている談話室を利用し、一人または利用者同士で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはエアコンを設置している。テレビや写真、仏壇など馴染みの物を持って来ていただいている。	備え付けの家具は、ベッド、タンス、電話、電気スタンドで、他は馴染みの品々の持ち込みを基本としており、使い慣れた品々や家具を持ち込んでいる。居室にはエアコンが設置され、居心地良く過ごしている。またトイレが2居室に1ヶ所隣接している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口、トイレは表札で表示している。状態に応じて車椅子や押し車などを使用している。		